

○

歐米局

朝鮮秘第36の辨

第一課

○

昭和三年二月十七日

朝鮮總督府官務部長

外務省官務部長

内閣拓殖局長

外務省亞細亞局長

警視總監

大阪神奈川山口兵庫

福井各縣知事

駐米官員派遣員

總選舉ニ對スル第三イターイナル
対策ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ朝鮮憲兵隊司令官ヨリ別
紙ノ通り受報候条御参考迄及通報候也

昭和三年二月廿日 接受

S

13401

102

S

13401

101

0079

昭和三年 朝第百九十七號

總選舉ニ対スルオシタノシタルノ対策ニ關スル件

第三、インターナショナルレハ合田ノ總選舉ヲ以テ日本
無産大衆ニ政治的ノ新紀元ヲ興フルモノトナシ在
日労働幹部特ニ商業代表ヲアキエラレ（在日
革命後援會委員長ナリ）ニ対シテ労働黨ニ物
質的援助ヲシテ方既成政黨ニ対スレ一般輿論
ノ反對氣勢ヲ興キル如ク宣傳指導キスル
指シセリト謂フ 尚且下津益ヨリ買収セル日本
船員ノ手ヲ経テ多数ノ宣傳文カ神戸、釜山、
西港ニ密送セラレツ、アリト



13401

103

0080

昭和三十二年
 二月二十日
 朝鮮總督府警務局
 昭和三十二年貳月廿參日 接受
 昭和三十二年貳月廿參日 接受
 昭和三十二年貳月廿參日 接受

昭和三十二年朝鮮保秘第三號 朝鮮總督府警務局

前京城駐在ドイツ副領事 哈爾濱ニ於テ講演件

前京城駐在ドイツ領事 本月四日來哈爾濱

極東銀行ヨリ五千圓取出シテ物品購入ニ使用スルコト

哈爾濱ドイツ領事館ニ於テ鮮内ニ於テ主義宣傳ハ警察網

完備為全然不可能ナルモ只沿海州鮮人ヲニテ鮮内潜入活動

セシムル一方法ノミナルモ此レカ指導監督亦不能ナル為失敗ニ終リ

ツマリ云々要旨ノ演説ヲ為シタリ

朝鮮ニ於テ共產主義宣傳事業ハ極メテ難事ニテ殆ト不可能狀態

状況ナリ

朝鮮ニ於テハ昔ノ帝政時代莫斯科ベトコラドノ如ク墮所ニ秘密探

偵網アリテ其間細密ナルト憲兵警察完備ヲ見ル

S

13401 104

0081

671.00711A

宣傳
 宣傳
 宣傳

(分類A.3.4.0.2-4)

ドイツ領事館員等カ地方出張スル際又ハ港灣ニ赴ク際トモモ何

等手ヲ下スノ餘地ナシ

只或機會ヲ捉ヘテ露人ニ宣傳スルコトヲ得ルニ又努メテ之ヲ為スモ其

利益所殆ト皆無ニ等シ

唯一方法ハ沿海州鮮人ニテ鮮内旅行ヲ利シテ之ニ當ラシムコト是ナリ

然レトモ是等監督ニテハ全然拱手傍觀ニ止ル即チ吾人ハ彼等ノ

為スガ儘ニ放任スルニ又之カ費用ハ思外巨額ニ達シ一九三七年ニ浦塩鮮

人部ノ宣傳費用トシテ支出セル額約一四七〇〇〇金留ナリ然レトモ此額

ハ派遣セラレタル彼等ノボツケトニ幾何入レラレシヤ又ハ金額カ適法ニ

消費セラレシヤ若クハ日本官憲ニ没收セラレタルヤ捕捉スルニ由ラズ其

行衛金ヲ不期ナリ

鮮人ノ漁夫等ニ救回宣傳ニ又ハ宣傳セシメタルモ結果ノ見ルハキモノ

ナク彼等漁夫等ハ革命者タルハキ素質ヲ全然有セサルカ如シ

S

13401 105

朝鮮の革命ヲ起スニ適當ナル諸要素ヲ相示スルニ係ラス日
本官憲ハ鮮人習慣同種族又革命ヲ企ツル資格者等ヲ
査究分ニシテ其發戒網完備固密ナラバ我黨員等ノ考フル如ク
容易ニ成功シ能ハス云々

本書發送先

拓殖局 警保局 亜細亞局 改米局
樺太廳 指定府縣廳 各道 各派遣員(除ルヘシ)



13401 106

0082

傳

外務省

試米局

外秘第一七二號

昭和三年二月廿八日

大阪府知事 田辺洛通



昭和三年參月壹日 接受

内務大臣 鈴木喜三郎 殿
外務大臣 田中義一 殿
指定各廳府縣長官 殿

浦汐港、於ケル赤化宣傳並ニ密輸取締狀況等ノ件

最近浦汐ヨリ入港ノ朝鮮郵船釜山丸(定期航路船)及救生商船
大慶丸(木材積取臨時船)乗組船長其ノ他ノ談ニヨレハ本港ニ於ケ
ル税関當局ノ密輸取締並ニ國際海員俱樂部員ノ赤化宣傳狀況大要左記
ノ通り、有ニ
右及申(道)報候也

記

(分類A.3.4.0.2-4.)

103.52

目 要

インターナショナル・レーメンズ俱樂部員ノ本邦船乗組員ニ對スル赤化宣傳
ハ益ニ行ハレツ、アリ
税関官吏ノ船内檢索ニ際シテ乗組員ノ所持品ト雖モ新品ニ對シテ封印
ヲ施シ檢査ニ當リテハ屜板ヲ取リ外レヌハ船員上陸ノ際上衣ニ枚ヲ防塞ノ
爲着シ居ルハ密輸取締者トシテ罰金ヲ科ス等其ノ取締ハ頗ル嚴密ヲ
極メク、アリ

釜山丸船長 日比與助 談
最近浦汐港ニ於ケル税関官吏ノ取締ハ嚴重ヨリ寧ロ昔時ニシテ本
船ノ如キ邦船間ノ國交回復以前ヨリ定期船トシテ航航セルモノ或ハ
最近就航ノ船舶モ何等異ルモノトナク本船入港ノ際ノ取締ノ嚴重ハ
乗組員ノ所持品ニシテ僅カ作業用ノ手袋一足タリトモ新調ノ品アリ
タル場合ハ密輸入ノ疑アリトテ嚴重封印ナスノ狀態ニアリ殊ニ本船
ノ令港發船中乗組員火夫印線方(鮮人)カ遊行ノ爲メ作業用葉葉版上
衣ニ枚ヲ着シ居リタルトテ(一枚ハ未ク面モ洗濯セルモノ)上衣ニ枚ヲ着
シ居ルハ一枚密輸入ヲ爲スヘク着レ上陸レタルモノナリトテ露骨
ニ十九ルーブルノ罰金ニ処セラレタル如キ次第ナリ、云々

S 13401 108

S 13401 107

0083

大慶丸 船長 河村千代義 談

本船ハ紅粘丸太積取ノ旨メ本月十日浦汐港、入港シ自由地場ノ對岸々塵ニ繫泊シタルカ入港之際レ國家保安部員並ニ稅關官吏ノ船内檢索ハ從前ト毫モ異ル事ナク最重ヲ極メ甚シキニ至リテハ船員室ノ壁板ヲ取り外シ極力密輸入品防止ニ燃命トナリ船用備品ハ勿論船員ノ所持セル靴下手袋タオル等ニ至ル迄悉ク新品ハ密輸入容疑品トシテソールレシテ殊々今航ハ船用品スヲ提示シ余セラレタリ、然ルニ聞ク所ニ依レハ最近支那吉林省方面ヨリ陸路貨物尙尙軍ニ諸物品ヲ搭載シテ密輸入ヲ敢行スルモノ頻々トシテ露國當局者ヲ困惑セレメ居レル模様ニテ密輸入密支那人違ト十回ノ密輸中九回マテ官憲ノ發見没収ヲ見越レ一回ノ成功ヲ恃ミトセル大膽ニモ冒險ナル違リ口ニテ浦汐市街ノ各商店ニ陳列サレアル商品中發澤品ト稱スヘキ商品ノ大初分ハ密輸品ト稱スルモ過言ニ非サル現状、アレハ諸物價ノ高キ事ハ實ニ世界ニ其ノ比ヲ見ス、例ヘハ「リング」一ヶ七十錢ト云フ驚異的ノ相場ニシテ若シソレ婦人ノ身ニ裝フ絹布類ニ至リテハ沙汰ノ限リト云フベク生命ヲ賭シテノ密輸品タル事ヲ肯サル、モノナ

S 13401 109 0084

彼地ニ於ケル船員ノ上陸之際レテハ入港之際レ國家保安部ヨリ船員各自ニ上陸券ナルモノヲ下附サレ携帶シテ自由ニ上陸ヲ得レ得、キモ上陸之際レテ何人モ一度タニ上陸券ノ点檢等ヲ受ケタルモノナク重大視セル上陸券ナルモノモ殆ント有名無實、等シク斯クテハ移或シ喜ハサル浮世口レアノ旨ス事ニモ似ヒヤラスト思ハシメタルコト九日岩港ニ際シ國家保安部員ニ上陸券ヲ返却ノ際一先上陸券ヲ紛失セルモノアリレカ即座ニ罰金トシテソールブル科セラレテヨリ此メテ上陸券制度ノ其ノ無意義ニ非サリテ事ニ氣附キ故意ニ懷紙ノ如ク薄クシヤ細意洋紙ヲ用ヒ破損紛失ヲ容易トシシメ居レル氣カ赤裸々ニ露ハレ諸事、罰金制度ヨリ他、何物モ無キ露國官憲ノ処置ニ對シテ微若笑ヲ禁レ難ハサリキ、浦汐ノ市街ハ年ト共ニ疲弊ノ度著レク道路ハ荒ル、ニ奉レ建築物ハ修繕ヲ施スエト無ク廢墟ノ巷ヲ思ハスモノアリテ世界ノ田舎浦汐トシテ言辭ハ其ノマ、ナルニ況ンバ昨今続水期ノ事トシ市場ノ凋落共ニ顯ニ邊ニ共產ノ國理想郷ト稱スルモノ、現實暴露ニシテ本國ニ般航シテ始メテハ蘇生ノ思アラシムルモノナリ、云々

S 13401 110

大發丸 水夫長 小田英市 談

本船ノ浦夕入港ノ翌々日ナル十二日夕方二人ノ日本人(朝鮮人ト云フ)乗船シ海員俱樂部員ナリト稱シ頻々日本海員組合ノ幹部ノ態度ヲ批難攻撃シタルニ依リ大人氣無キトハ思ヒタルモ自分達ノ信頼セル組合幹部ノ攻撃ニ對スル應酬ヲ尙シ即刻退船スヘシト強硬ニ出タルニ俱樂部員ハ語ヲ改メ當地ニ止ル海員俱樂部ハ露日ノ韓人間ノ船員相互ノ親睦ヲ計ル尙メニ設ケラレタルモノナレハ俱樂部ニ於テハ有益ナル扶助又ハ諸種娯樂機關ノ設備アレハ是非遊行サレタキ旨ノ義務ヲ受ケタルカ下級船員全員快カラサル第一印象ト實氣ノ爲メ所用以外上陸セルモノ尠ク隨テ俱樂部ヲ訪問セルモノ一名タニ無キ有様ナリ

南俱樂部員ノ乗船ニ際シテハ従来ノ如ク新聞紙等ノ印刷物ハ一葉モ持参セサリキ云々

(3)

S

13401

111

0085

欧米局 第一課 昭和三年三月五日 大阪府知事 田辺 俊通 接受

外秘第一九一號 昭和三十二年三月五日

内務大臣 鈴木喜三郎 殿
外務大臣 中義一 殿
指定並に岡山ノ各總督 知事 長官 殿

漸次赤色海員俱樂部ニ於ケル船員大會参加者ノ取調状況ニ関スル件

要再回 (分類 4.3.4.0.2-4) 677a.007
警備局長(要官) 御通牒、次第ニアリタル以テ、前時浦汐ニ礙阻セル船名等本年一月二十五日外秘第一九一號既報スルト同時、引續キ岡係方面注意中ノ處、客月五月ニ至リ既報國際汽船株式會社所有吳山丸大阪ノ入港レタルカ時恰モ同船司厨長田原精一郎カ客年十一月本船大速就航中、飲酒ノ上乗組員高山新一ト曰論レ高山ノ海中ニ突キ落レ遂ニ死ニ至ラシメタル傷害致死ノ被疑事件アリタルヲ以テ、カ犯罪内容ノ取調ヲ為スト共ニ一面如上船員大會ニ参加セルモノヲ調査中、アリシカ遂ニ同船司厨長田原次郎カ當日之ニ参加セル事、事實判明シタルハ本名ト船後ノ所出調査ノ結果、岡山縣ニ籍特別要視察人重寶逸太郎方ニ仮寓セルト同(要)報ノ應接ヲ得シ之ヲ承諾同行ノ上爾来嚴重取調ヘタルニ其ノ狀況別紙聴取音響ノ如ク俱樂部ノ内容及大會ノ狀況ハ概略判明

警備局長(要官) 御通牒、次第ニアリタル以テ、前時浦汐ニ礙阻セル船名等本年一月二十五日外秘第一九一號既報スルト同時、引續キ岡係方面注意中ノ處、客月五月ニ至リ既報國際汽船株式會社所有吳山丸大阪ノ入港レタルカ時恰モ同船司厨長田原精一郎カ客年十一月本船大速就航中、飲酒ノ上乗組員高山新一ト曰論レ高山ノ海中ニ突キ落レ遂ニ死ニ至ラシメタル傷害致死ノ被疑事件アリタルヲ以テ、カ犯罪内容ノ取調ヲ為スト共ニ一面如上船員大會ニ参加セルモノヲ調査中、アリシカ遂ニ同船司厨長田原次郎カ當日之ニ参加セル事、事實判明シタルハ本名ト船後ノ所出調査ノ結果、岡山縣ニ籍特別要視察人重寶逸太郎方ニ仮寓セルト同(要)報ノ應接ヲ得シ之ヲ承諾同行ノ上爾来嚴重取調ヘタルニ其ノ狀況別紙聴取音響ノ如ク俱樂部ノ内容及大會ノ狀況ハ概略判明

S 13401 113 S 13401 112 0036

スルに至リシモ本名ハ浦汐航路、就キレハ僅カ
 ニ二回コレヲ然カモ當日ハ該商船所ニ居リタ
 ルノ故ヲ以テ協議事項ノ内容ヲ知レルニ未ダ
 遺憾ノ点アリ、然ルニ當日同探浦汐港ニ碇泊
 中、汽船英龍丸(國籍運輸株式會社キヤター船)船
 員中ニハ既ニ同俱樂部ノ幹部トナルモノアリテ
 該大會ニ際シテハ同船員五六名之ニ参加シ海
 員ノ牛耳ヲ執リタル趣ヲ以テ直ニ前叙英龍丸
 丸ノ現就航方面ヲ捜査スルニ全船ハ尾道所
 向島トツク入渠中、客月二十六日門司經由大
 連ニ向ヒ本月四日同港發来ルハ九日頃敦賀港
 ニ入港ノ
 付イテハ以際徹底酌ニ之カ事情ヲ瞭ニシ商内
 客ノ如何ニ依テハ治安維持法違反トシテ檢査
 シタキ希望ヲ以テ明七日當俱樂部外一名ヲ福井
 縣ニ出張セシメ令(表)數ト協力シテ該船ノ
 入港ヲ待テ之カ取調ニ着手スル豫定、有ニ
 退テ如上田口龜次郎ハ一昨三日放還セラレカ所
 ヒ右重寶方ニ赴ク等ニ付イテハ岡山(表)縣ニ
 於テハ彼カ従来船員トシテ思想若クハ労働運
 動ニ從事セシ経歴ニ鑑ミ相害御注意相成度
 右及申(通)報候也

S 13401 115

S 13401 114 0037

聴取書

本籍 青島膠州路限都田島村字大浦口ノ一。三九番地
出生地 同上

現住青島市下石井新街三三七番地
重寶逸太郎 方

身重 平良 船員

田口 龍次郎

當三十二年

右者本職之對之昭和三年三月一日迄ノ通り陳述ヲ
為シタリ

一 私立前野ハアリマセ又

一 私立兵役ノ關係ハアリマセ又

一 私立信託勸業年金等ハ持テマセ又

一 私立實業ハ本末 農業ノ傍ヲ雜貨商等ノ管ニテ

居リマシタカ今カラ三十二年位前ニ實父ハ亞米利加

ニ参リ約十一年間ニ働キテ股額致シ現在ニテハ原籍

地ニ養育シテ居リマシタカ夫レテ家庭ハ實

ニカ妹ト同居シ 實母ハ弟ヲ連レテ別居致シ之ニ

養育ノ傍ヲ養育見等ニ依リ生活シ致シテ居リマシ

一 私立幼少ノ時ニ母親ノ實家ヲ養育サシ高等小學校

ニ二年ヲ修業シテ十六歳ノ頃カラ海軍ニ附シ志

ス 當時兵務部武庫部西宮町八國汽船會社

所有ノ勝三丸ノ水夫見習トシテ後司厨部ト

シテ轉シタノ初メトシテ引續キ山下汽船會

社ノ上洋丸 日下汽船會社ノ宿安丸ト轉シ致

シマシタカ大正十二年七月一日 國際汽船株式會

社ニ雇被同社所有ノ其彌丸 (當時アメリカ海軍

航路船)ニ乗組シ司厨部トシテ約十ヶ月居

リマシタカ今十二年八月頃下船シテ大阪市東區澤

上江村 青瀬染工場ニ職ニトシテ被雇マシタ。主

トシテ仕上卸ヤ發送部ノ係ヲアリマシタカ翌

十四年二月頃今工場ノ職ニノ罷業ニ參加致シマ

シタノニ解雇サレ爾來同山市ニ参リマシテ中國房

僱組合同団聯合會ヲ創設トシテ労働運動ニ從事

S

13401

117

S

13401

116

0038

致レテ居タノテスカ其ノ中ニ岡山新西大幸町小
倉地ト足家ニ湯等ニ被症同年六月頃用ヒ大股
ニ参リ東成區岡郡町氏名不詳ノ防氷加製選
ニ陽ニ二十日間位傷キマレタノテアリスカ今年
七月一日、元雇ワレテ居タ國際汽船株式會社
司倉部宛ノ飯員カ山米タノテ一面ヒ令社所有
ワレントン丸(歐州行切遠洋航路船)ニ乗組シ昭和
二年六月頃述英國アリエーストルン泊リカールス
ワシントンニ米國ニューヨークニボストンニヒラテ
ヒイヨシ独乙ハニアルグ「伊太利各港ノ航路ニ從事
シテ居リタカ同年八月三日令社所有ノ吳山丸ニ
司倉部次席トシテ轉船シ月給四十二圓ノ外ニ十
八圓ノ食費ヲ給ヒシレ尚多少ノ給収ハタ敷クニ
居リタカ令社三年三月五日本社ト合意ノヒニテ
下船シ爾果ハ前ノ申シケタ高瀬染工場罷業ノ際
ニ共ニ解雇サレタ關係ヲ和合トナシタ旨書ノ書寫無
逸太郎方、後屬シテ居リマス

下私リ曾テ恩惠的ニ纏ツタ研究シタマツトハナイン
テアリマスカ前叙高瀬染工場ノ解雇サレシケリ
ヲ岡山市テハ無政府主義者高木精一、入江
秀夫、重實逸太郎等大阪テ、久保康、逸野
吉藏、矢野洋之郎、生島繁等ト交際シ
互ニ主義ノ研究ヲ遂ケ尚東京労働運動社ノ
近藤憲二等ノ話ヲ聞イタ事モアリマス、ソレテ
労働運動ノ方面テハ自由聯合會ノ宣傳係ヲ
担当シ傍ラ岡山純労働者組合ノ組合長シ
勤メテ皆タノテアリスカ其ノ間約六ヶ月間ヲ職
業者モ四五回關係シタマツカアリマスカ殆ク海
上生活ヲ續ケテ居リマスカ於ケル運動者
トシテ連絡ハトイハテスカ只重實中憲等
盟団代徒一節等トニ通信シタマツトモアリマス
下私共社外職衆組員ノ多クハ殆ト日本海員組合
加入シテ居リマスノテ勢ヒ個人的ニ動ルニシテ
研究等シヤリ又船中ヨリテハ船内委員會カ組織サ

S 13401 119

S 13401 118

0039

レテ居リマスカリラニ等ノ概圖ヲ研究ヤ討論會ヲ持
 ステアリマスカ私ノ乗ル船夕吳山丸ハ左翼分子
 カ少イカラ斯標ヲ組織カ無イノテアリマス、殊ニ
 私ハ無政府主義ヲ信奉スル關係ヲニ等ノ者ト
 ハ恩惠的ニ多クノ連絡ヲ有レタリノテアリマス
 一私ノ乗船テ居ル夕吳山丸ハ常々朝鮮、大連、樺太、
 台湾、上海及鎮江等ヲ專ク近海航路ニ就キテ居
 タノテスカ船名ニ等ノ十二月二十日ハ浦沙、入港シ
 タリテアリマス、

船長非内政次郎ノ外ニ高等海員七名、甲級船
 員九名、機関部員十一名、司厨部員四名、厨計
 三十二名ヲアリマシタカ、常日ハ港内沖懸リテ檢
 査等ヲ済マレテ道、横橋、横濱等ニ相立三十
 一日ハ特役ノ準備ヲ致シマシタ
 越ヘテ昭和三年一月一日ハ午前十時一四十分
 シテ各部員ヲ御祝ヒ酒レ午後船長以下船員ト
 上陸シ殊留レタノハ水夫長及私外六七名ノ下級

船員等ノ等々引渡キ表部迄テ飲酒致シマシタ
 シテ就レテ相當ノ暇斷レテ居ル様ヲ恰度午後
 二時半頃ニナシマシテ一員共四五歳位ノ男カ參
 リシテ私ニ對シ浦沙海員俱樂部ニ行カナイカト
 勧誘致シマシタノテ私ハ本船員カ既ニ俱樂部ニ
 行クテ居ルカト答フニシテ是ニ來テ居ルトノ邊事ヲ
 アリマシタノテ其ノ男ニ連レテ本船ヲ去ル約一丁
 位ノ若壁ニ繫留シテ四ツタ小蒸汽船ニ乘リマシ
 タ、其ノ時本船ト同一若壁ニ繫留シテ居タ
 英艦丸ノ下級船員五名カ乘組ヲ來タノテ結
 局其ノ小蒸汽船ニ乗合セタ者ハ私ト英艦
 丸船員五名ノ外ニ宣傳員ヲレキマシ二名合計
 八名ヲアリマシタ、私達ノ乗ツタ船ハ約十分間
 位ヲ浦沙市街近クノ若壁ニ到着シ一月徒走
 ニテ約三十分位ヲ海員俱樂部ニ到着シタノテ
 アリマス、
 一私等ノ附クテ行ク海員俱樂部ハ何トシテ所ニ

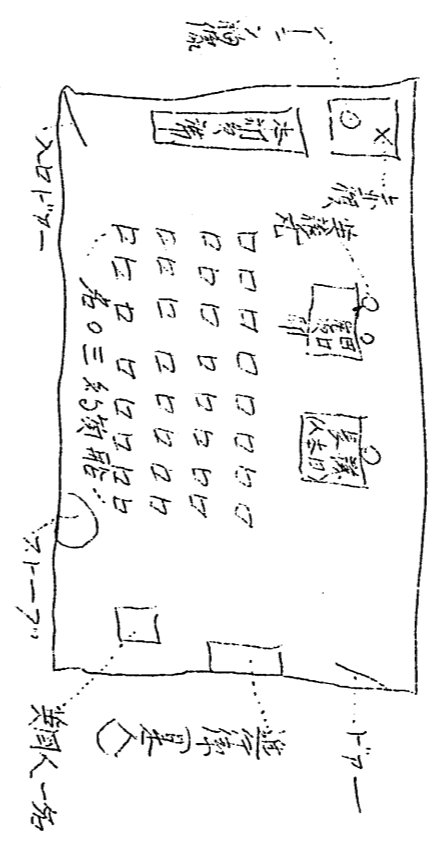
0090

13401 120

S 13401 121

ルガ...マセシカ...着イタノハ午後四時頃テ...カナ
 大通リノハワスノ二階テアリマレテ案内シレタ...
 ハ三十坪位ノ部屋ヲ其ノ内部ニハローニンシノ胸
 像ヤ赤旗ト海軍組合刷新同盟セ組織シ
 ト日本字テ青イタホスター等カ掲ケシレテ
 リマレタ。夫レテ私共カ遠入ツタ時ハ左圖ノ如ク
 各設ケラレタ。着イタ既ニ何カ適合ツレテ居
 マレタ

左圖 (署名人自書セリ)



一私共海軍組合刷新同盟...
 位ノ誰ハ聞イタトハ...マカ本末私ハ無政府主義
 義ヲ信奉シテ居シト浦上ハ此メテ行ツタノテ
 解ニ一月一日ヲ多分何カ餘興ヲ見セシ呉レル
 考テ其ノ新誘ニ應レテ各々テアリマスカ宜州
 ハ因向ノ如ク本初負席ニ日本人五六名(因朝鮮人カ
 居名ヲ記ス)及露國人一名 漢名席ニ氏名不詳
 一見世四五歳位大五尺三寸申肉ノ日本人、進行
 係席ニハ三十四五年ノ五尺二寸位申肉ノ閑床兼
 ノ聲ノ男、海軍部ハ日本船員約三十名其ノ
 他英國人露國人等合計約四十名カ居並テ
 居テ而モ縦一尺五寸位横六寸位ノ西洋紙ニ
 日本活字ヲ印刷シタモノ一枚懸ツテ来タノ
 テ附付シハ辭ヲ掛ツテ居タノヲ充分ニ記憶シ
 マセレカ其ノ裏ニ革命ノ歌ハ片断ノ歌、赤旗ノ歌
 等カ印刷シテアリ表ニハ船員海軍刷新同盟ノ要
 ニテハ付間活字カ、活字金等ノ事ニ書キテアリタ

[S] 13401 123

[S] 13401 122

0091

標記憶して居ります

下私カ前々着イタ時ハ配布シテ来タ印刷物ハ依テ
議事ヲ進メテ行ク様ナ標記ヲアツタカ其條的ニ何
ノ点クヤウタノカ自分ヲ酒ニ酔ワラセタノテ明瞭ナ
ナリカ記憶シテ居ル点ハ

ハ社外職員ノ當面取ルルキ最低限度ノ要求
ニ就テノ議案中ノ最低労働時間即チ軍
務部及機關部ノ労働時間ハ絶対六時間ト
シテ労働部ハ八時間トス

ハシテト聯邦ノ海員俱樂部ハ改定條約日本ノ
労働者民衆ヲ支持シヤウト思フカ此種
ト云フ風ヲ議案ヲ議長力留メテ者ハ諸クテ議案
万場一致クテ決シテ居マレタ又英人ヲシテカ
英語ニニ回テハ饒舌トシテカ内容ハ充分判
リシカ外國ノ労働運動情況ヲ述ベタカノ様
思ハス 更ニ海員部カ三各名位交ハ正テ所
屬會社ヲ痛罵シ或ハ労働條件ノ改善ニ就テ

テ意見ヲ述ベ 尚海員俱樂部會ノ立場カラ
思想的ニ希望シテ日本海員組合幹部ノ行
動ヲ批准シテ居マレタカ最後ニ進行條約ヲ居
タ日本ノ只今讀ム聞カモシタル決議文(此條
証第一号別紙決議文ヲ讀ム) 附議シテ居マレタ
カ結局可決シテカ保留シテカ其ノ辺ハ記憶シ
マセ

一私ハ決議文ノ胡亂ニ先立テ議事ノ進行中ニ但
合幹部ノ刷新意見ノ項カアリタカ自分其ノ
刷新意見ニ賛成致シマレタノテ議長ト呼ビ度
ニテ許サレマレタカラ過去ノ郵船爭議ニ際シ但
合幹部ノ専横ヲアルタ例ヲ擧ゲテ中共集相
的現状ヲ批准シ尙無改訂主義ノ立場カテ改
訂行動ハ進ムシテ否定シテ万場ノ拍手ヲ受
ケタテアリマレタカ其ノ時議長ハ意欲アリ氣
笑シテアリタカ而シテ室内ニアリテ無茶苦
茶ニ捲リ廻レタ知事部カニ之名未テ制止シマレタ

...

S 13401 125

S 13401 124

0092

新編コレヲ會談ニ付、其レト同外
ニ室因テ一向カ紀念撮影ヲ致レマレタ
其ノ直
後、丸、カ、ノ、文、字、ノ、入、ッ、タ、マ、ー、ク、レ、ッ、ク、レ、ク、レ
債五銀ヲ領ケテ貰ヒマレタ

一、大會終了後茶葉ノ饗應カハ續キ行ハレ
マレタカ、私ッ其ノ時、ビ、ル、ニ、本、質、求、マ、レ、テ、英
龍、丸、ノ、乘、担、負、ミ、四、名、ノ、馳、走、致、シ、難、漢、中、レ
一、マ、レ、ク、ラ、ブ、(、海、防、保、衛、部、)、ノ、マ、ー、ク、ヲ、却、償、四、千
銀ヲ領ケテ貰ヒマレタカ、此場合自分ノ所屬船
氏名ヲ聞カレタ様と思ヒマス

一、海防保衛部專屬ノ活動寫眞ハ晝夜映寫
サレル様アリマスカ、尙日ハ最後ノ午後十一時カラ
ノ映画ヲ見ヨト前叙聲ノ男ノ紹介ニ基キ
テ其レヲ觀覽シタノテアリマスカ、寫眞ノ内容ハ
獨ニ革命ニ際シ革命軍カハ蘭西國境ヲ越
一、シ、武、器、庫、ヲ、襲、ヒ、武、器、ヲ、掠、奪、シ、テ、及、革、命、軍、派、ノ
對抗セル労働者ノ革命完成ニ至ル苦心ヲ能ク書

トシタレテアリマレタ、其ノ活動寫眞ハ十二時頃
終リマレタノテアリマス

一、私ハ終リト同外、英龍丸機関部員西田某
(大會中其ノ氏名ヲ知ル)ト共ニ支那料理ノ途中會
合シテ午前十時頃船ヲ離レテアリマレタ

一、其ノ後本船ハ巨船ノ積載ヲ了シ、マレタノテ二月
五日浦沙港ヲ出帆シテ台湾基隆高嶺ニ寄港
シテ二月五日大股ノ入港致シマレタカ、自分ノ前
中上夕棟ノ會社ト合意ノ上テ下船シ將來海
外生活ヲ断念シテ何カ者業ヲ仕探ト計畫中ニ
アリマス

一、大會終了後寫眞ヲ撮影セル快否如何
管、寫眞ハ大會カ終リマスト終リテ居レタ
三十一年位ノ日本人カ只今カラ紀念撮影ヲ
シマスカラト云フノテ一同ヲホスタノ下ニ
集メマレテ撮影シタノテアリマスカ、之ハ参加船
員ノ全部ヲハアリマセヌ参加シカウタ者ハ寫

S 13401 127

S 13401 126 0093

ヲ撮ル事ヲ厭フタトシテアロウト思ヒマスリ何
故カ其ノ意味ハ判リマセヌ。ソウシテ出来上ツタ寫
真ハ其ノ後ニ日計リシテ英龍丸ノ西田カニ一枚三
十錢ヲ領ケテ貰フタト云フテ私ニ一枚呉レタ
テアリマス。更ニ私ハ其ノ貰フタ寫真ヲ基隆
寄港シテ陸軍實業逸太郎宛郵送シテヤリマ
シタ

問 其ノ時ノ撮影シタ寫真ハ三ト同種ノモノカ

一ト同種別紙証書ニシテアル

答 其レト同種ノモノテアリマシテ前列何ツテ右端
ハ英龍丸ノ西田カアリシテ其レカ右ヘ四人
同ノ眼鏡ヲカケテ居ルノカ私ラ思フ其ノ他ハ
顔ヲ見マレタカ名前ヲ判リマセヌ

問 冠カ海員俱樂部ヲ買ハツタト云フマークハ
之カ

一ト同種別紙証書ニシテアル

答 其ノ二ツニ相違アリマセヌ

問 イーニターナレヨルニシメニス クラブニセハ
(証書ニシテ)ノマークハ如何ナル意味ヲ買入レタ
カ

答 別段ノ意味ハアリマセヌカ日本人テアル幹部
カ洋服ノ左襟ニ着ケテ居タノ何ノ徽章テア
ルカト尋ネマレタ処海員俱樂部ノ本部員ノ章
テアルト云ヒマレタノアルレシ一箇領ケテ呉レト申
シマレタカ只今無イト云フテ其ノ人ノ顔ケテ
居ルモノシテ四十錢ヲ領ケテ貰フタノテアリマス
問 M.O.N.P. マーケルノマークハ如何ナル
意味ヲ買入レタカ (証書四号)

答 其ノ徽章ヲ買フテ依ツテ別段トウレヤウ
ト云フ標ノ意味ハアリマセヌカ本部員ノ露國分
現存ヲ持ツテ日本人ノ幹部カ之ヲ革命家後援
會ノマークナルカヲ買フテ呉レト云フテアリマ
シタカ僅カニ五錢位ノモノテアリマシタノテ一箇領ケ
テ貰フタノテアリマス

S

13401

129

S

13401

128

0094

問 船等方浦沙ノ海員俱樂部ノ集マツテ協儀多
大會ノ目的ハ何カ

答 大會ノ目的ハ船員力増進上ノ基本的事ヲ組
織トシテ船内委員会ヲ設ケ採ト云フ事ト
今一ツト混亂トテ居ル現在ノ職界ヲ統一スル
内社外船員新船員及同志會トシテ互友
俱樂部ト云フ標ヲ單独的ナ開掌形體ヲ糾
合統一シテ海員組合刷新同盟ト云フモノ
造成シテヤリトスルノカ大體ノ目的ヲアツ
クテアリス、夫レカ爲ニ決議文トカ前ニ申
上テ採テ實行上ノ協儀ヲシテ居クテア
マシカ自分ハ何個ニ繰返シテ申上テ標ニ酒
醉拂クテ居クテト主義力違フテ居ルノテ餘
リ興味ヲ持クナクシテ従ツテ協儀シタ由容ハ具
體的ニ記憶シテ居マセシ

問 右ノ大會ニ参加シテ費ツタ印刷物ハ其ノ後如
何ニ処分セシヤ

答 其ノ印刷物ハ内地ニ持歸シハ官憲ニ發見セシ
テ五月蠅カラストノ船長ノ注意カアツタノテ浦沙
山帆スルト間ニ無ク天越羅ヲ揚ケル下敷ニ
使用シタノテ其ノ供焚付クテ致シマレク

問 一月一日ノ大會ニ参加シタ日本船員ノ氏名及其
ノ所属船名ヲ述ベヨ

答 呉山丸カラハ私ノミラアリ 英龍丸カラハ私
ト一所ニ行ツタノハ西田 某外 四名ヲアリス、
其他ハ船ノ名前ニ亦船員ノ名前ヲ知りマセ
又

問 本朝方ノ名前前ヲ知ツテ居ルノカアルカ

答 議長席ニ居クテハ申村トカシヒ、又矢野ト
シテハ進行係ノ席ニ腰掛ケテ居タ算聲
ノ男ノ稱ニ思ヒマス、ソレテ私ヲ勸誘シ末タ因カハ
朝鮮人ヲ吉澤トシテ男ヲアツタイトカ判テ
マレク

右録取ノ上讀圖カセタルニ當リ實相違ナキヲ認

0095

S

13401

131

S

13401

130

×注意署名捺印シタリ
昭和三十一年五月二日

S

13401

132

0096

REEL No. A-0367

0367

アジア歴史資料センター

歐米局

第一課

昭和四年四月四日 接受
朝鮮總督府

朝保秘第七四〇號

昭和三年三月三十日

朝鮮總督府政務總監 池上 四



亞細亞局

情報部

外務省次官 出淵 勝治 殿

浦鹽ニ於ケル赤化宣傳放送ノ件

客月二十八日咸鏡北道清津郵便局ニ於テ各地放送聽取中浦鹽放送局ヨリ露語ニテ左記内容ノ放送ヲ解爲ジタル後朝鮮語支那語ニテモ同一意味ノ共產主義宣傳放送ヲ行ヘル趣ナルカ今後斯種計畫ヲ繰返スモ

441.744
441.727

S 13401 133

0097

朝鮮總督府

ノトセハ嚴重交渉ノ必要アルモノト認メラル、ヲ以テ御考慮ナリ
不取敢通報ス

二月二十一日 浦鹽放送局ノ赤化宣傳放送ノ件
朝鮮總督府

放送内容

要旨
二十年前ハルピンニ於テ伊藤公暗殺サレタ當時以來朝鮮ハ刺ノ支配ニ依リ表面平和ナルモ内容然ラス今ヤ共產主義蔓延シツ、アルヲ以テ遠カラス日本人ヲ驅逐シ自由ナル樂園トナルヘシ

二月二十八日午後六時六分開始（露西亞語）

皆様私ハ今日朝鮮ガ共產主義トナツテ壓制ヲ事トスル日本政府ヲ倒壊シ自由ヲ得壓迫ヨリ免レル事ニ就テ御話シマス

日本政府ガ朝鮮ヲ統治シテ以來最早約二十五年ニナル今ヨリ二十年

S 13401 134 0098

前ハルピン驛デ統監ヲ殺シタカ此當時カラ朝鮮ハ憲兵警察官ヲ以テ都會モ田舎モ充滿シ朝鮮ヲ銃劍デ支配シタ而シテ毎日幾十幾百幾千ノ朝鮮良民ヲ殺シタ是レガ爲メ一見平和トナツタ然シ決シテ平和ニナツタノデハナイ監獄ノ中ニ多數入獄セシメテ刑ニ處シタ爲メデアル朝鮮ニモ共產主義ガ^{蔓延}シテ居ルカラ追々自由ノ立派ナ國トナツテ日本人ヲ驅逐スル事ガ出來ル今ハ非常ニ壓迫サレテ居ル爲メ生活ニ困ツテ居ルガ共產主義ガ實現スレバ自由ナ國トナリ富有ナ國トナツテ一大樂園ト化スル殊ニ勞動百姓等下層階級ハ壓倒サレテ居ルガ今少シ待テバ天使ガ日本人ヲ驅逐シテ自由ナ國トナルノデアル
共產主義ハ五十七年前佛國デ初メテ共產政府ヲ作ツタ然シ此政府ハ施政上過チ多ク直チニ倒壞シタノデアルガ之ガ爲メ漸次改善セラレ約五

13401 135

0099

十年後露西亞共產主義ノ天下トナツタノデアル帝政ノ時ハ人民ガ壓迫サレタガ今ハ非常ニ自由ナル富有ノ國トナリ樂園トナツタ帝政當時誤ツタ政治モ明瞭トナツタ殊ニ從來ノ經驗ニ依ツテ赤軍ノ政府トナツテ^既二十年良政ヲ施シテ居ル今後ハ永久ニ此自由ノ國ハ繼續スルノデア
アル
マルクス氏モ云ヘリ勞動者ト雖モ天ハ貴族階級ト^爾等シク生ミタルモ今ハ却ツテ之ヨリ虐遇サレ居リト
今ヤ我が露西亞ハ燈臺ガ^光燈光ヲ放ツガ如ク全世界ニ赤化主義ヲ宣傳セントスルモノニシテ着々其效果ヲ擧ケツ、アリ世界各國何處ノ國ト雖モ社會ニ階級爭鬪ノアラサル處ナク下層階級ノ者ハ貴族階級ヨリ何レモ壓迫虐待セラレ^居然シ一度我レノ如ク赤化主義ヲ實現スルニ於

13401 136

0100

朝鮮總督府

テハ直チニ斯ル階級争闘ノ如キハ立所ニ消散シ立派ナル社會ヲ出現セ
シムルニ至ルノデアアル故ニ東洋日本支那印度ジャワ全部ニ革命運動ヲ
必要トスルノデアアル

S

13401 137

0101

REEL No. A-0367

0367

アジア歴史資料センター

歐米風

外務部第三七四號

昭和三年四月四日

大臣存事 田邊治通

昭和三年四月七日 接受

内務大臣 鈴木喜三郎殿
外務大臣男爵 田中義一殿
指定各廳 府將 長官 殿

浦波ニ於ケル赤化宣傳ト日本海負組合
ノ對策運動ニ關スル件

浦波寄港ノ本邦船乗組員ニ對シ今地國際海
負俱樂部部員ノ赤化宣傳状況其他ニ關シテハ關
係各(貴)廳並ニ府府ニ於テ屢報セシ處ナルカ近
昨同地ニ寄港スル社外船乗組員ニ對シテ
ハ旺ニ宣傳負乗組員種々巧言令色以テ俱
部ニ遊方極力勸説シ之レニ應ジタルモノニ對シテ
ハ直接思想ノ注入ニ努メ又ハ一般下級船員ニ對シテ
ハ機關紙亞細亞赤化協會新聞其他各種左傾思想
宣傳文書等ヲ頒布シ勞資階級並ニ高級船員並ニ下
級船員間ノ反目助長散発ニ努ムル等極力宣傳ノ魔
手ヲ振ヒツアルニ就テハ今地汽船船乘組員中
ニ組合員ヲ有スル在神戶日本海負組合幹部ハ前
記實情ニ鑑ミ所屬組合員ノ左傾化ノ憂慮シ種々
之レカ對策取議ノ上本年一月以降浦波寄港ノ
船乗組員組合所屬船員ヲシテ今地上陸ノ際
彼等ノ宣傳ニ乘シタルカ如ク懐ハシメ海負俱樂部
ニ出入レ彼等宣傳員並ニ出入船員等ト親シク接
近シ其ノ宣傳状況ヲ視察シ船乗ノ際取寄セシム
ルト共ニ頒布宣傳印刷物等ノ如キモ参考トシ
テ持テ歸リ組合本部ニ提出(別記参照)セシメ居
ル事ナルカ今地汽船部ニ於テハ如上ノ結果ニ依リテ比
較的多數ノ今地寄港船員ノ有スル川崎及國際汽
船會社方手者並ニ關係各船長ニ對シ浦波入港中ニ

(分類 A. 3. 4. 0. 2. 4)
103. 12

S 13401 139

S 13401 138

0102

於ケル米但船隻ノ動靜監視及脱船々負取滞一方ニ
 関シ警告ヲ發スル意思ニテ内々其ノ議ヲ進メフ、アル
 報ニ有之
 右及中(直)報候也
 別記

書籍名	発行者	内容ノ大要
社會保險トハ何カ	國際五通運輸労働者連合會	賃金は如何に労働と取極か 外 一、三、項
國際海員俱樂部	同上	職業別に於て海員ノ「インデペンデンス」 外 七、項
海軍同會は何カ	三宅伊之助	海軍同會を導ル 外 六、項
露西亞海軍關係史	丁十カノ一フ著(海軍運輸者)	海軍ニ對する苛酷ヲ 外 九、項
労働組合規約		労働組合ニ要スル改革 外 七、項
日本労働者の現在と後日		労働者は如何にして其ノ 居るか 外 七、項

亞海赤色海軍新聞

國際海員俱樂部

多數

以上

S 1340i 14i

S 1340i 140

0103

歐米局

昭和三年
四月六日

朝保秘第八二八號

朝鮮總督府
秘書局

第一課

四月九日
朝鮮總督府

ソウエート 聯邦ノ對日施設ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ三月三十一日付哈爾濱派遣員ヨリ左記ノ通り受報セリ

日本ノ無産階級運動ノ發展ニ件ヒ之カ調査報道ノ爲專問家ヲ派遣ス

クビヤークノ提議ニ依リ日本ノ經濟其ノ他調査ノ目的ヲ以テ日露協會開設ノ計畫

協會開設ノ計畫

一、第三インターナショナル執行委員會ハ日本政府カプロレタリア階級ニ對スル取締嚴重ニシテ其真相ヲ詳知スルコト困難ナル所日本ノ日本ノ無産階級運動ハ最近異常ノ發展ヲ示シツ、アルニ鑑ミ此カ内容ヲ知ルノ極メテ緊要ナルモノアルヨリ全露共産黨情報部（

(1340.2-4)

S 13401 142

0104

表面ハ統計部ト稱ス *Statistical Bureau*)ト共同シ東京ソウエト大使館内ニ此等諸運動ノ經過、現在並ニ將來ノ傾向ヲ專問的ニ調査報告セシムル爲近ク一名ヲ派遣スルコトニ決シ目下人選中ナリ而シテ從來ノ立場上トロヤノフスキー大使ハ反對スルナランモ右ハ全然宣傳、煽動ニ干與セシメサル方針ナリ

二、莫斯科ニ於テクビヤークハ提議シテ日本ノ經濟狀況並ニ日本人ノ生活狀態ノ調査ヲ目的トセル日露協會ノ開設ヲ唱ヘタル處ルナチヤルスキー(學務大臣)ハ該計畫ニ對シ自分カ日本ノ旅行ヨリ歸還後又ハ今夏レニングラードニ於テ開催豫定ナル技術工藝博覽會 *Moscow Exhibition*)ニハ日本ノ技術者學生諸工藝家ヲ招稱スヘケレハ其迄待ツ可ナリトノ説ヲ述ヘ結局今夏迄該會ノ創立ヲ延期スルコト、セリ

本書發送先 內閣拓殖局長・國務省亞細亞局長・內務省警備局長

S 13401 143

0105

分類 3. 2. 0. 2-4

文書課長		文書課發送		昭和參年四月貳拾日發送済		淨書		校(原稿)		(甲號用紙)	
主 管 歐米局長		主 任 歐米局長		和 三 年 四 月 十 九 日		附 屬 書		通			
受 信 人 名 杉山 内務次官		發 信 人 名 出淵 外務次官		件 名 第三一インターナショナル執行委員會幹部會ノ本邦共產運動ニ關スル決議ノ件		送 達 名					
客年七月十五日第三一インターナショナル執行委員會幹部會カ日		本ニ於ケル共產運動ニ關シ採擇セル決議ノ抜抄ヲ在壽府「第三一イ		ンターナショナル」反對國際協調 (Entente International contre la III ^e)		公 信 案		外 務 省			

13401 145 0107 88

要部 情報部

情報部 亞細亞局

文書課長		文書課發送		昭和參年四月拾九日發送済		淨書		校(原稿)		(甲號用紙)	
主 管 歐米局長		主 任 歐米局長		和 三 年 四 月 十 八 日		附 屬 書		通			
受 信 人 名 在 浦 潮		發 信 人 名 田 中 外務大臣		件 名 浦潮ニ於ケル赤化宣傳放送ニ關スル件		送 達 名 緞 共產黨對外宣傳委員會幹部會 對日宣傳委員會					
本件ニ關シ今般朝鮮總督府政務總監ヨリ別紙寫ノ通通報ノ次第アリ		タルニ付テハ布御參酌入上本件ノ眞偽至急御查報相成度此段申進ス		(別添三月卅日附池上政務總監來信寫一部添付ノコト)		公 信 案		外 務 省			

13401 144 0106 83

(乙 號用紙) 國帛

g. (Schwartz) 編纂ノ資料集ニ載録セル趣ヲ以テ今般吉田瑞西公使ヨリ右

記事ノ寫送附越ノ次第アリ前記決議ノ詳細ハ調査 ^{上ノ不日申進ス可}

書不取敢右記事ノ寫並其要譯何等御參考迄茲送附ス

(別添佛文並和文附屬書寫一部宛添付ノコト)

外務省

S

13401

146

0108

(赤 梓 紙)

共產主義「インターナショナル」執行委員會幹部會カ

一九二七年七月十五日ノ會議ニ於テ採決セル日本ニ關

スル決議(本年一月發行ノ「インプレコール」第五、

六、七、八、九號掲載)ノ抜抄

「日本國家ヲ民衆化セントスル運動ハ當然資本主義自身ニ對スル争
闘トナル可シ。現時ノ日本國家ニ加フル一撃ハ即チ日本ノ資本主義
制度全般ニ對スル最モ手痛キ攻撃トナル可シ」

「今日日本ニ於テハ小「ブルジョア」カ急速ナル勢ヲ以テ「プロレ
タリア」トナリツツアルヲ發見ス

外務省

S

13401

147

0109

(赤梓紙)

「日本ニ於テハ資本主義ノ發達極メテ大ナルカ故ニ民主主義ヲ目的トスル「ブルジョア」革命ハ一躍社會主義革命ニ化シ去ル可シ」

「日本ニ於ケル革命ノ原動力ハ「プロレタリア」農民並都市ノ小ブルジョアノ三者ナル處就中「プロレタリア」及農民ヲ其ノ主ナルモノトス」

「日本ニ於テハ地主並資本家ノ構成スル反動的團結ニ對抗シテ労働者ト農民トヲ以テ革命的團結ヲ作成スルニ必要ナル一切ノ客觀的條件備ハレリ」

外務省

0110

148

13401

S

(赤梓紙)

「日本ニ於テ革命運動ヲ成功セシムル爲メニハ労働者階級ヲシテ農民階級ニ對シ正シキ政策ヲ採用セシムルヲ要ス」

「「プロレタリア」ト農民トノ同盟ハ絶對的ニ必要ナリ。而シテ右同盟カ革命的トナリ勝利ヲ博スルハ労働者階級カ霸權ヲ獲得シテ始メテ可能ナル可シ」

労働者階級ニトリテハ民主主義ヲ目的トスル「ブルジョア」ノ革命ハ社會主義革命ニ至ル迄ノ一段階ニ過キス」

「革命運動ハ急激ナル勢ヲ以テ地方ノ「プロレタリア」並ニ半「プロ

外務省

0111

149

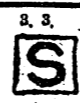
13401

S

ロレタリヤノ間ニ増加シツツアリ今日既ニ農民ノ十二「パーセン
ト」ハ諸種ノ農民組合ニ加入ス。共產主義者ハ宜シク此等ノ農民組
合ヲ糾合シテ共產主義的革命家ノ指揮ノ下ニ立ツ勞農黨ノ傘下ニ立
タシムルヤウ努力セサル可ラス

(赤 梓 紙)

外 務 省

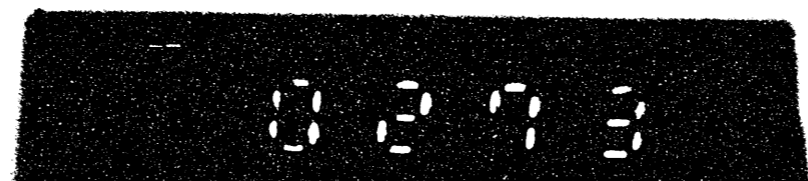


13401

150

0112

REEL No. A-0367



アジア歴史資料センター

(赤 粹 紙)

「労働者階級ハ其ノ最モ進歩セル且ツ最モ革命的ナル部分、換言スレハ共産黨ノ指揮ノ下ニ立ツ時ニ於テノミ勝利ヲ博スルヲ得ヘシ」
「日本共産黨幹部ノ根本的誤謬ノ一ハ共産黨ナルモノヲ理解セサルコト並ニ其ノ使命ヲ餘リニ輕ク見ルコト及ヒ共産黨カ労働運動ニ於テ特殊ノ重大ナル意義ヲ有スルコトヲ輕視スルコトニ存ス」

「目下最モ根本的ナル任務ハ共産黨ヲシテ數ノ點ニ於テ大ニ發達セシムルニアリ。勿論理想並政策ノ點ニ於テ共産黨ヲ發達セシムル爲メニ努力スルヲ要スルモ之ト同時ニ共産黨ハ多數者ノ政黨トナリ、且ツ日本「プロレタリア」ノ進歩分子並ニ革命分子ヲ一切網

外 務 省

3.3. S

13401

151

0113

(赤 粹 紙)

羅シテ之ヲ共産黨ノ下ニ糾合組織スルヲ要ス」

「現下ノ狀勢ニ於テハ共産黨ナルモノハ社會主義ヲ打破セスンハ發達ノ見込ナシ。

此ノ原理ハ日本ニ於テモ亦眞理ナリ」

「爾今日本共産黨ハ共産主義者ノ影響ヲ被ルコト最モ大ナル労働農民黨ト目下露西亞系ノ影響ヲ受ケツツアル左翼「サンヂカリスト」黨トヲ合同セシムルヤウ努力スルヲ要ス」

外 務 省

3.3. S

13401

152

0114

「共産黨ハ過去ニ於テ不幸ノ原因ニシテ且ツ其ノ幹部ノ根本的缺點
 タリシ點即分立心ヲ除去スルヲ要ス」
 「次ニ最も重大ナル誤謬ノ一タル青年トノ協調ノ缺如^{兵隊}ハ指摘セ
 サル可ラス」
 「上來述ヘ來レル所ニヨリテ見ルニ日本共産黨ハ次ノ活動方針並ニ
 綱領ヲ採擇スルヲ要ス
 一 帝國主義的戦争ノ危険ニ對シテ奮闘スルコト
 二 支那革命ニ觸レサルコト
 三 「ソヴェト」聯邦ヲ擁護スルコト
 四 殖民地ノ完全ナル獨立
 五 議會ノ解散

(赤 粹 紙)

外 務 省

S 13401 153 0115

六 王朝ノ廢止
 七 十八歳以上ノ男女ニ選舉權ヲ賦與スルコト
 八 集會、結社、團結、言論、並出版ノ自由
 九 八時間労働
 十、失業保險
 十一 反労働者の法律ノ廢止
 十二 皇室、國家並ニ教會ニ屬スル土地ノ沒收
 十三 所得ニ對スル累進稅
 「前記諸要求ハ労働農民政府ノ綱領並「プロレタリア」獨裁ニ添付
 セラレサル可ラス」
 「日本代表カ其ノ誤謬ヲ認メ且ツ共産主義「インターナシヨナル」

(赤 粹 紙)

外 務 省

S 13401 154 0116

ノ訓令並ニ決議一切ノ受諾セル事實ニヨリ日本共産黨ハ正シキ活動方針ヲ採用シ得ルヲ保證スルニ足ル

(赤梓紙)

外務省

S

13401 155

0117

REEL No. A-0367

0367

アジア歴史資料センター

Les autorités de Moscou se sont efforcées de produire une impression favorable sur la délégation japonaise arrivée en Russie au début de l'année. De part et d'autre des paroles d'amitié furent prononcées et de part et d'autre on a insisté sur la nécessité de resserrer les liens entre les deux pays.

Simultanément le Présidium du Comité Exécutif de l'Internationale Communiste a adopté dans sa séance du 15 juillet 1927 des thèses sur le Japon. Elles ont paru dans le courant de Janvier 1928 dans l'"Inprekorr" (N^{os} 5,6,7,8,9 1928).

Ces thèses sont du plus haut intérêt; en voici quelques citations:

"La lutte pour démocratiser l'Etat japonais... se transformera inévitablement en une lutte contre le capitalisme même; un coup porté à l'Etat japonais actuel, sera en même temps un coup très sensible porté à tout le système capitaliste du Japon.

"Actuellement on remarque au Japon un processus rapide de prolétarianisation des couches petites bourgeoises.

"Le niveau du développement capitaliste au Japon est tellement élevé que la révolution bourgeoise démocratique s'y transformera immédiatement en une révolution socialiste.

"Les forces motrices de la révolution japonaise sont le prolétariat, les paysans et la petite bourgeoisie urbaine, mais en premier lieu et surtout, le prolétariat et les paysans.

"Au Japon toutes les conditions objectives existent pour créer un bloc révolutionnaire ouvrier et paysan en opposition au bloc réactionnaire des propriétaires fonciers et des capitalistes.

"Une politique juste de la classe ouvrière à l'égard des paysans est indispensable au succès du mouvement révolutionnaire au Japon.

"L'alliance du prolétariat avec les paysans est absolument nécessaire; cette alliance ne sera révolutionnaire et victorieuse que si l'hégémonie appartient à la classe ouvrière.

"Pour la classe ouvrière, la révolution de la bourgeoisie démocratique n'est qu'une étape sur le chemin de la révolution socialiste.

"Le mouvement révolutionnaire s'accroît très rapidement parmi les prolétaires et semi-prolétaires des campagnes; dès maintenant près de 12% des paysans sont groupés dans les associations paysannes. Les communistes doivent s'efforcer de grouper ces associations autour du parti ouvrier et paysan sous une direction révolutionnaire communiste.

0118

S 13401 157

"La classe ouvrière ne peut être victorieuse que si elle est placée sous la direction de sa partie la plus avancée, la plus révolutionnaire: le parti communiste.

"Une des erreurs fondamentales de la direction du P.C. japonais est de ne pas comprendre et de sous-estimer le rôle du P.C. de sous-estimer son importance spéciale dans le mouvement ouvrier.

"La tâche essentielle est actuellement d'assurer le développement du P.C. en quantité. Tout en travaillant activement pour relever son niveau idéologique et politique, le parti doit s'efforcer de devenir un parti de masse, et de grouper et d'organiser dans ses rangs tout ce qu'il y a d'avancé et de révolutionnaire dans le prolétariat japonais.

"Dans la situation actuelle, les P.C. ne peuvent se développer sans lutter contre la social-démocratie. Cette thèse s'applique aussi au Japon.

"Le P.C. japonais doit dès maintenant s'efforcer de réaliser la fusion du parti ouvrier et paysan qui subit fortement l'influence des communistes avec le parti syndicaliste gauche, influencé actuellement par les centres russes.

"Le P.C. doit surmonter ce qui fut le malheur et le défaut essentiel de sa direction: l'esprit sectaire.

"Il faut souligner également une erreur des plus graves: le défaut absolu de travail avec les jeunes.

"Partant de ce qui précède, le P.C. japonais doit se tracer le programme d'action et les mots d'ordre suivants:

1. Lutte contre les dangers de guerre impérialiste,
2. ne pas toucher à la révolte chinoise,
3. défense de l'U.R.S.S.,
4. indépendance complète des colonies,
5. dissolution du parlement,
6. suppression de la monarchie,
7. suffrage universel pour hommes et femmes à partir de l'âge de 18 ans,
8. liberté de réunion, d'association, de coalition, de parole & de presse,
9. journée de 8 heures,
10. assurance contre le chômage,
11. abolition de la législation dirigée contre les ouvriers,
12. confiscation des propriétés foncières du Mikado, de l'Etat, de l'Eglise,
13. Impôt progressif sur les revenus.

"Ces revendications doivent être rattachées au mot d'ordre du gouvernement ouvrier et paysan et à la dictature prolétarienne.

"Le fait que la délégation japonaise a reconnu ses erreurs et a accepté intégralement toutes les instructions et les décisions de l'I.C. est une garantie que le P.C. japonais saura adopter une juste pour son travail.

Règle de conduite

0119

(分類 13.2.0.2-X)

(票合照)

電第一二八號

昭和三年四月三十日

發信者

受信者 在露田中大使

田中外務大臣

件名 宣傳問題ニ関スル貴族院秘密會ニ関スル件

原書ハ工ナシ・23

日本共産黨關係雜件ニ在リ

記録件名

共産黨對外宣傳關係雜件
對日宣傳關係

S

13401

158

0120

亞細亞局

第一課

昭和三年五月八日

諜報機密第 三ハ〇 號

昭和三年五月一日

在上海

總領事 矢田七太郎

外務大臣男爵 田中義一 殿



臺灣ニ對スル革命宣傳ニ關スル件

最近在シンガポール印度革命機關ヨリ雪澤警視使用ノ密偵ニ宛テタル通信ニ依レバ目下シンガポールニ於テ印度人及支那人主義者間ノ協力連絡完全ニ維持セラレ居リ且ツ支那人ハ全地ニ於テ印刷セラレタル共產主義宣傳文ヲ臺灣ニ密送スル方法ヲ講ジツツアル由ニテ之等ノ宣傳印刷物ハ

(分類 43.4.0.3)

在上海日本總領事館



13401

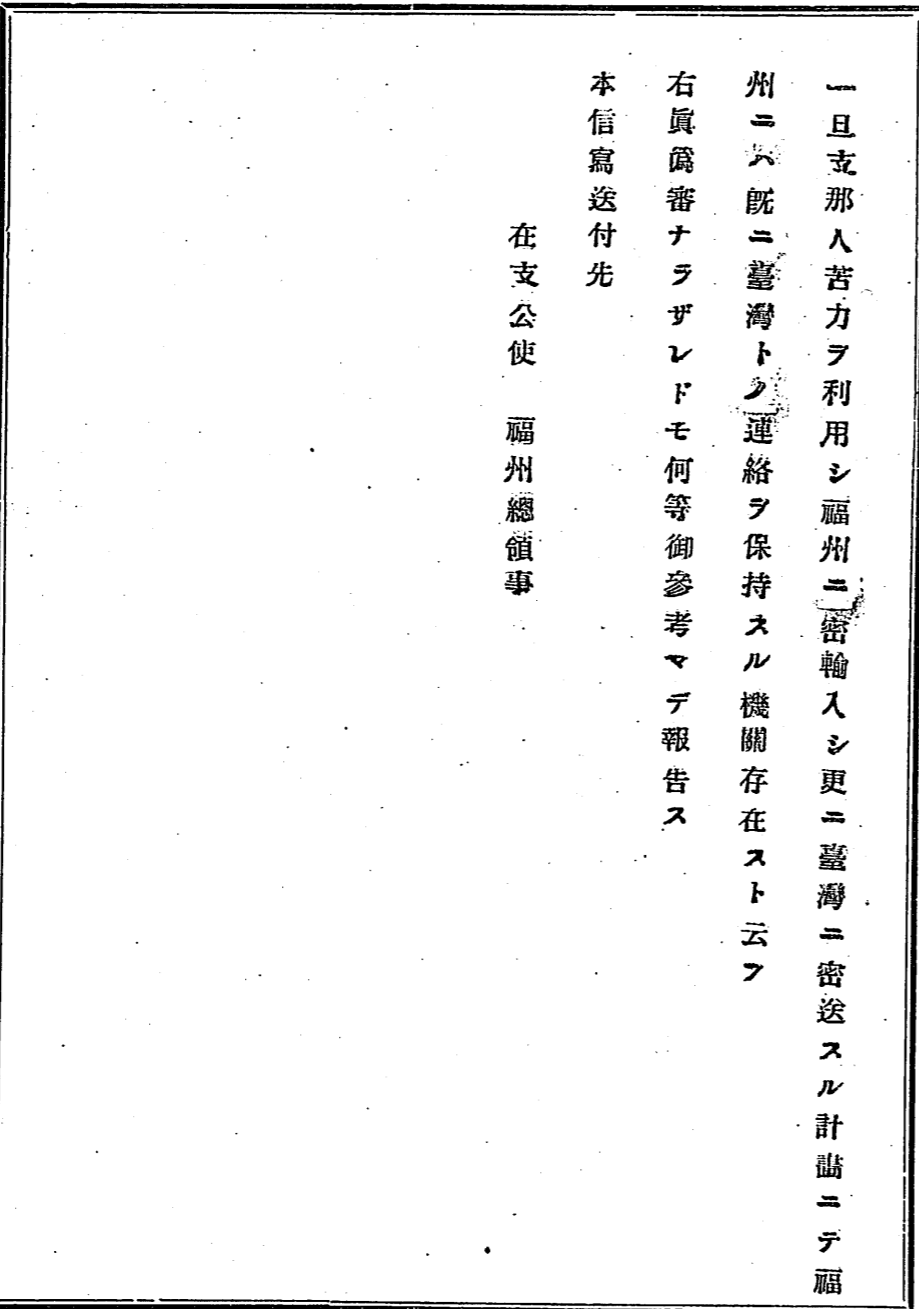
159

0121



一旦支那人苦力ヲ利用シ福州ニ密輸入シ更ニ臺灣ニ密送スル計畫ニテ福州ニハ既ニ臺灣トノ連絡ヲ保持スル機關存在スト云フ
右眞偽審ナラザレドモ何等御參考マデ報告ス
本信寫送付先

在支公使 福州總領事



在上海日本總領事館



13401

160

0122

分類(8.4.02-4)

電送第 9150 號

昭和 3 年 5 月 4 日 時 0 分 發

9 ⑤

電信案

外務省

セシ 居ラサルヤ 取調 電報 アリナシ

(原議用紙乙) 團結

13401 162 0124

電信案

外務省

宛	田中大佐	田中 外務大臣
	第一三八號	
件	オエ、ソ、クシタオレ、ロケル、執行等	綴 共産党對外宣傳、不傳體、對日宣傳
主務	田中 外務大臣	綴 共産党對外宣傳、不傳體、對日宣傳
管主	歐米局長	綴 共産党對外宣傳、不傳體、對日宣傳
任主	第一課	綴 共産党對外宣傳、不傳體、對日宣傳

電報課邊印

昭和 3 年 5 月 3 日

電 信 案

電信課邊印

電信案

(原議用紙甲) 團結

13401 161 0123

REEL No. A-0367

アジア歴史資料センター

電信課長 津田

大臣

次官 湯

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

(分類 79.2.1.2-2)

昭和3 四九六三 暗 莫斯科 五日 後發
 本省 五月 六日 前着 歐一

田中外務大臣
 第一三六號
 貴電第一三八號ニ關シ
 問題ノ「テーズ」ハ共產「インターナショナル」執行委員會機關
 雜誌「コムユニスターチエスキー、インターナショナル」ニハ
 掲載シ居ラス

外務省

S

13401

163

0125

㊦

情報部

歐米局

第一課

昭和三年五月拾七日接受

朝保秘第一〇九六號

昭和三年五月十一日

朝鮮總督府 警務



内閣 拓殖局長殿
外務省 歐米局長殿
内務省 警保局長殿

浦潮ニ於ケル赤化宣傳放送ノ件

首題ノ件ニ關シ咸鏡北道知事ヨリ左記ノ通り受報セリ

本件露領ニ於ケル鮮語ノ宣傳放送ニ關シテハ本府政務總監ヨリ外務次官宛本年三月三十日附朝保秘第七四〇號(他ノ各廳ヘハ三月十五

朝鮮總督府

日附朝保秘第六〇四號ヲ以テ通報セリ)ヲ以テ對策御考慮方申進シ置キタル處ナルカ四月二十七日附歐一機密第二一八號ヲ以テ歐米局長(貴官)ヨリ浦鹽涉邊總領事ノ報告轉報ノ次第モアリ斯種放送ハ今後隨時行ハルルモノト認メラルルヲ以テ之ガ對策ニ關シ御配慮アリタシ

左記

四月二十八日管下清津署ニ於テ浦鹽放送局ヨリ放送セルラジオヲ聽取セシカ其ノ概要左ノ如シ

記

午後七時六分ヨリ鮮語ニテ講演

友ヨリ五月一日ハ萬國勞動階級ノ國際的祭日テアル此ノ機ヲ利用シ

(松本樹)

S 13401 165

S 13401 164

0126

各方面へ宣傳スヘキピラナリ材料ハ先日發送シタ次第テアリマス
カ郵便ノ關係テ遠隔ナル農村ニハ此日迄ニ到着サレヌカモ知レヌ
略ヲラジオテ放送致シマス即チ五月一日ノ勞動祭日ヲ期シ勞動階
級ハ萬國勞動者ノ國際的同胞主義ト階級的一致ヲ示シ八時間制ヲ
實施スルカ爲メノ世界的大示威運動ヲ行フ日テアル此ノ意味ニ於
テ我等勞動階級ハ團結シ資本主義者ト侵略主義者ニ反抗シ而シテ
世界ヲ改造シマセウ侵略家ハ假面ヲ被リ軍艦會議等ト色々ノ美名
ノ下ニ計登シテ居ツタカ其ノ實ハ彼ノ恐ロシイ歐州大戰爭ノ如キ
準備ヲ内密ニシテ居ツタカ先般ノゼネバニ於ケル軍艦不成功ト共
ニ其ノ假面カ破レタノテアリマス
如斯ニシテ侵略家連ハ殖民地ニ軍隊ヲ増設シテ無産勞動階級ヲ壓

朝鮮總督府

迫スルノヲ與以テ彼等ハ満足シテ居ルノテアリマス
ソコテソヴィエト聯邦ハ全世界ノ勞動階級ト相提擧シ團結シテ
彼等ト反抗シ闘ヒテ勝利ヲ期シタイトシテ居リマス之ニ關シソヴ
イエトハ萬般ノ準備ハ整ツテ居リマス 無産大衆ヨ殖民地ニ於
ケル被壓迫民族ヨ團結シテ反抗セヨ
最モ農村ヲ合理的ニ組織シ生産力ヲ向上セシメテ文明ノ程度ヲ高
クスル爲メ學校ヲ設置シ活動寫眞講演會等ノ催ヲ盛ニシタイトモノ
テアリマス
ニ午後七時二十八分鮮語ニテ
朝鮮最近ノ消息
1 朝鮮ニハ齋藤總督カ代リ後任トシテ山梨半造ト云フ人カ來マシタ

(松本地)

S 13401 167

S 13401 166 0127

ガ氏が着任着任直後注目スヘキ二大要件ハ之テアリマス

一、日本ノ田中内閣カ朴泳孝ニ依頼シ鮮内ニ重要ナ一団体ヲ組織サレ
タソウテアル其ノ内容人物ハヨク知ラヌカ探聞スレハ其ノ内容ハ
労働運動ノ緩和策ヲ取ツテ貰ヒタイトノ事テ人物ハ國民協會員ト
カ其ノ他古イ廢物バカリヲ網羅スルノテアリマセウ

二、中樞院ノ事テカ所謂中樞院ニハ以前ハ諮問權丈與ヘテアツタ
ガ今回ハ決議權ヲモ與ヘタソウテスカ其ノ決議權ハ總督ニアルソ
ウテアリマスコレハツマラナイ貴族達ヲ甘言利説テ外面優遇スル
様ナ形式ヲ取ツタノテアルテセウ(無電防害甚シク聽取至極困難
ナリ)朝鮮共產黨ハ豫審力逐々終結シ近ク公判カアルハズテアル
間島ニモ近頃社會主義者カ大分殖エタノハ喜ハシイコトデアリマ

朝鮮總督府

ス最近支那カラ仁川へ入港ノ汽船便毎ニ支那人ノ労働者カ千餘名
上陸スルソウデアリマヌテ二月ヨリ三月ノ間ニ早クモ一萬七千人
モ上陸シタソウデアリマスコレ等ハ皆咸鏡北道ニ於ケル鐵道工事
ト水道工事ニ從事スヘキモノタソウテス朝鮮ニ於ケル小作紛争ハ
日ニ激シク黃海道載寧郡ニ於テノ東洋拓殖會社ノ横暴極マル行動
ニハ憤慨ニ堪ヘナイ次第デアリマス昨年小作料四斗テアツタノカ
今年ニナリ一石八斗ニ上ツタノハ何ト驚クヘキコトテハアリマセ
ンカ
彼等ハコンナニシテ小作人労働者ノ血ヲ搾取スルノデアリマス
午後七時三十五分
日本ノ政況ト概消息ヲ話シマス

(松本樹)



13401 169



13401 168

0128

日本ニ於テハ三月ヨリ檢舉サレタ共產主義者ハ千餘名ニ上リ之ト同時ニ彼等ノ秘密新聞ヤ其ノ他奇妙ナ宣傳方針ト共ニ軍隊ノ秘密ヲ外國へ洩シタコト迄曝露シタノテアリマスココテ政府ハ目ヲ光ラシ官公私立大學ノ教授學生中少シテモ赤色分子ト認メラレルモノハ片端カラ度ヲ過キタ處分ニ附シタノテアリマス京都帝大フ經濟科先生ヤ東京帝大ノ教授中ニモ處分ヲ受ケタ人皆ソレテアリマスコレト同時ニ社會科學研究會等ハ解散ヲ命セラレタ彼等ハコンナニセヌハ共產主義者ハ根絶スルモノト愚想シテ居ルカ決シテ人力テハ如何トモ出來ナイコトテアリマス

朝鮮總督府

田中内閣ハ居留民保護ト云フ美名ノ下ニ支那山東方面ニ一師團ノ出兵ヲ斷行シ全支那民族ヲ威迫スルノテアル
午後八時八分

五月一日ト農村社會主義建設
友ヨ我々農村ニ居ル友ヨ

五月一日ヲ紀念スル意味ニ於テ共產主義勞動群衆ハ相團結シ彼等ノ資本主義侵略主義連ヲ征服シ社會主義宣傳ニ意ヲ注キ世界的革命ヲ起ス目的ノ下ニ **SOSSOR** ニ於ケル勞動者ハ此ノ日全部出勤シテ示威行列ヲ行ヒマセウ

午後八時三十五分
今回新韓村ニ新韓ラルクスガ組織サレタノハ我々共ニ喜ブ次第テア

(松本樹)



13401 171



13401 170

0129

アリマス皆様内心拍手ヲ願ヒマス
ソレカラ第一農村ニ必要ナノハ「ラヂオ」テアリマヌ一ケ十二圓五
十錢テスカラ何トカシテ國境ノナイ此ノラヂオヲ是非備付ケテ下サ
イ

朝鮮總督府

(松本樹)



13401 172

0130

REEL No. A-0367



アジア歴史資料センター

遞秘第八八九號

昭和三年五月十五日

朝鮮總督府遞信局長



遞信省電務局長殿

露西亞ノ宣傳放送ニ關スル件

四月卅日及五月一日ノ兩日清津郵便局ニ於テ各地放送聴取中浦鹽放送所ヨリ日本語、
朝鮮語等ニテ放送セル別紙内容ノ講演ヲ傍受シタル趣ニ付御參考迄ニ及御通知候

0131

13401

173





四月三十日午後八時三十分ヨリ

(朝鮮語)

五月一日ハ來タ我々無産者ハ赤旗ヲ高く掲ケテ全世界ノ侵略家ノ前ニ出テ示威運動ヲヤリマセウソウシテ意味深ク歴史ノ多イ五月一日ヲ記念シマセウ

五月一日ハ我労働界ニ於ケル革命的記念日デアリマス

全世界ノ被壓迫民族ハ一齊ニ侵略家ニ反抗シ遠カラス革命ノ準備ヲ致シマセウ

(日本語)

明五月一日ノメーデーニハ各國ニ於テ收監サレル同志モ多數ニ居ルデアリマセウ殊ニ朝鮮ノ同志ノタメニ兩手ヲ舉ケテ祝福スルノデアリマス

同志等ヨ一日モ早ク革命的土臺ヲ建設シテソヴイエート聯邦ノ後援ヲ受ケマセウ

ソヴイエート聯邦ハ世界革命ヲ前提トシテ國境ナキ積極的援助ヲ致シテ居リマス

五月一日



今日ハ五月一日即チメーデー紀念日デアリマス之ヲ祝賀スルカタメ特ニ演説、唱歌ヲ以テ皆様ニ農村問題労働者無産階級者ニ對スルコトヲ遠ク廣ク宣傳スルノデアリマス

萬國無産者ヨ五月一日ヲ祝賀セヨ社會主義ヲ宣傳セヨ死シテ行クモノヲ助ケ壓迫ヲ受ケツツアル殖民地ノ労働者ヲ後援セヨ五月一日ハ我等ノ日デアアル

我等ハ社會主義國家ヲ建設シ無産階級ノ解放ヲ計ラネハナラヌ又其レノミナラス有産者ヲ破滅サセルコトニモ努力セネハナラヌ皆様ヨ同胞ヨレニン主義ヲ根本トシテ總テノコトヲ力強ク計畫セヨ

労働階級ト國際平和ヲ堅クナシ農村ノ諸制度ヲ改メ總テヲ平等ニシヨウ今日ハ各國無産同胞カ協力一致シ共產黨ニ参加スルノ日デアアル五月一日ヲ記念スル意味ニテ農村ニ居ル同志等ニ同情セヨ彼等トテモ全世界ノ労働者ノ一分子デアアルソヴイエート聯邦ハ



13401

175



13401

174

0132

我等ノ機關テアリ又我等カ同盟ハ全世界ニ於ケル被壓迫者ヲ解放セムトスルモノデア
ル
貧農民家ヲ團結シテ有産者ニ反對セヨ労働者及無産者ハ一致セヨ萬歳！

S

13401

176

0133

REEL No. A-0367

0289

アジア歴史資料センター

五

要収受

送付アリ

第一課

昭

逓信省

電業第一三九四號

昭和三年五月廿八日

次傍秘

外務省 歐米局長 殿

逓信省 電務局長



露西亞ノ宣傳放送ニ關スル件

右ニ關シ朝鮮總督府逓信局長ヨリ別紙寫ノ通り通報有之候條爲參考及御送付候

昭和三年五月三十日

S 13401 179 0136

手

秘

秘

電報

參謀次長宛

上海電第五五〇号

諜者報。日本共產黨員二名支那人一名(共支那服ヲ著ス)ハ宣傳文ヲ携行シ十四日當地發青嶋ニ向ヘリ其目的ハ日本軍ニ宣傳セントスルニ在リト參考

第三師團濟

昭和三年六月十七日

六月十六日 前二時五分發
上海 重藤中佐

記録係名 共產黨宣傳團員發傳
對日宣傳手帳

共產

0137

13401 180

S

秘

秘

電報

參謀次長宛

上海電第五四九號

露國人諜者談。在上海露國共產黨ハ最近會議ヲ開キ日本ニ於ケル宣傳方法ヲ討議シ日本共產黨ノ活動ヲ新ニ開始シ且恐怖主義ヲ實行スル様決定セリト、日本文ニ依リ反日宣傳書多數莫斯科ヨリ上海ニ到着シ遠カラズ日本ニ送附セラレヘト本會議決議案及反日宣言書ハ目下入手ニ勉メソ、アリ

北京濟

昭和三年六月十七日

六月十六日 前二時五分發
上海 重藤中佐

共產

0138

13401 181

S

亞細亞局

第一課甲

昭和三年七月拾日 接受

表

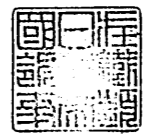
公信第一八三號

昭和三年七月七日

別紙添附

在鐵嶺

領事近藤信



亞細亞局第二課



外務大臣男爵 田中 義一 殿

不穩文書配布ニ關シ報告ノ件

本日當館宛支那郵便ニテ世界革命労働軍聯盟ナル名ヲ以テ別紙寫ノ如キ
日本文パンフレットヲ送付シ來レリ右文書ノ封筒ニ貼付セル支那切手ニ
ハ「限老黒貼用」ト黒印シアリ相當廣ク配付セルモノト察セララルカ消
印不鮮明ナル爲メ發送地不明ナリ右消印ハ殊更不鮮明ニ仕組ミタル形跡
アリ御參考迄報告ス

(分類 13.40.2-4)



13401

182

0139



馬

善良ナル無産ノ子

親愛ナル日本軍人同志ニ概ス

中國ニ於ケル過去三四年間ノ血祭ハ實ニ自由平等ヲ愛スル中國々民革命ト僭權專制者自稱大元帥張作霖ト戰テアツタ然ルニ憐ムヘキ彼ハ熱法ニモ日本軍隊ノ威カヲ借リテ多年横暴虐殺ヲ恣ニシタ無智ナル日本軍閥ノ首領等ハ世界民衆新思潮ニ送ツテ強盜張作霖ヲ援助シテ如何ニ中國革命ヲ妨害シ且ツ遠延ナラシメタカハ世界周知ノ事テアル然シ正義ハ最後ニ於テ邪惡ニ打勝ツモノテアル殺人鬼張作霖ハ今ヤ倒レ國民革命ノ

S

13401

183

0140

命ノシンボルナル青天白日旗ハ北京城頭ニ翻リテ中華民國ノ新光明ヲ祝ス嗚呼親愛ナル日本軍人同志ヨ！抑テ諸君ハ何ノ為自由平等ヲ愛スル中國革命ヲ力着ト戦ヒテ悲慘ナル無名ノ屍トナルヲ憐ヤ？是正シテ諸君ノ血ヲ絞リテ尚止マサル軍閥ノ徒輩ニ欺レテ斯クスルノミ親愛ナル日本軍人同志ヨ！彼等ハ諸君ノ血ト膏ノ力カニ因ツテ高樓巨閣ニ住ミ身ヲ綺麗ヲ纏ヒ日夜シヤンパンノ祝盃ヲ舉ケテ酒池肉林ニ遊フトアル然ルニ實際ノ勞力者タル諸君ハ如何？人生ノ花タル諸君ハ彼等ノ貪慾ノ戦ノ道具ニ供セラレテ戰場ニ

S

13401

184

テ殺サレ老ヒタル父母幼キ妻子女ハ彼等カ爲
ニ産ケラレテ餓死ス 諸君ハ斯ク永久ニ奴
隸ノ子トナリテ満足スヘキモノニアラス今ヤ
我々ハ諸君ト共ニ我々ノ權利ヲ擁護スヘ
ク世界革命労働軍聯盟ヲ組織スヘキ時
期ニ逢ヘリテ我々ハ握手ノ年ヲ出シナカラズ
諸君ニアラズル不逞ヲ破壊スヘク革命ヲ
起セヨ而シテ自由平等友愛ノ道ヲ開ケ
ト賢明ナル諸君ハ世界的氣運ヲ洞悉シテ
我々ト握手スヘキヲ確信ス血祭ヲ止メヨ我
々敵軍演習閣ノ走狗タル事ヲ止メテ奴
隸ノ羈絆ヲ脱セヨ而シテ進メヨ諸君ニ産ケ
タル日本民衆ヲ解放セムカ爲ニ我等正
義ノ血赤色革命旗ヲ揮立テ世界無産
革命共同戦線ニ向フテ突進シテ凡ソノ權
利ヲ彼等ノ手ヨリ奪還セヨ而シテ諸君ト共
ニ唱ヘン

世界無産革命萬歳
人類自由平等萬歳
日本軍人無産同志萬歳
一九二八年六月 日
世界革命労働軍聯盟

S 13401 186

S 13401 186

0141

65

大 臣 政 務 大 次 官 廣 田 外 務 大 臣 陸 軍 大 臣 海 軍 大 臣 通 商 局 長

分類 3.4.0.2-4
7.6.11.23R
6711007
電送第5405號
昭和9年6月25日午後7時15分發

電信課長 (印)

主任 第一課 (印) 大正 年 月 日

件 第三「インターナショナル」ノ行動ニ關シ抗議方ノ件

宛 在露 田中大使 田中外務大臣

暗 第二三五號

五月二十四日「ブラウダー」ニ發表セラレタル帝國ノ對支出兵ニ關シ

第三「インターナショナル」執行委員會ノ採擇セル抗議的傲文ハ

帝國ノ政策ヲ故意ニ曲解誹謗シ甚シク非友誼的ナルノミナラス我國

農民及兵士ニ對シ革命ヲ煽動スル激越ナル言辭ヲ含ミ居ル處同執行

電信案

外務省

(原議用紙甲) 圓柄

S 13401 187 0142

(原議用紙乙) 圓柄

委員會幹部會ハ客年七月日本共產運動ニ關シ我國體ト根本的ニ相容
 レサル箇條ヲ含ム「テーズ」ヲ採決シ居リ (往電第一七六號參照)
 共產黨事件ノ爲極メテ鋭敏トナリ居ル我國ノ輿論 第三「インター
 ナショナル」ノ此種言動ニ對シテ不快ヲ感シ不安ノ念ニ馳ラルルハ
 當然ノ事ト云フヘク爲ニ日露ノ國交ニ不測ノ結果ヲ招來スルナキヲ
 保セス國體ヲ異ニシ制度ヲ異ニスル兩國間ノ親善ハ相互ニ他ノ國體
 制度ヲ尊重スルニアラサレハ之ヲ庶幾スル能ハサルコト多言ヲ要セ

電信案

外務省

S 13401 188 0143

ナル所ニテ

帝國政府ハ露國當局ノ誠意ニ信賴スルカ故ニ今直チニ第三「イン
 ターナシヨナル」ト「ソヴイエト」政府トノ關係ニ關スル同政府從
 來ノ見解ニ駁論ヲ加ヘ北京條約第五條ヲ援用シテ抗議ヲ提出スルカ
 如キ意志ナキモ右兩者間ニ事實上密接ナル關係存在スルコトハ周知
 ノ事實ナルニ鑑ミ我國民ニ於テ前顯「ブラウダー」紙所載ノ如キ檄文
 カ第三「インターナシヨナル」執行委員會ノ名ニ於テ公表セラルル
 ヲ默過スル能ハサルハ露國當局ニ於テモ諒解ニ難カラサル所ト信ス

(原議用紙乙) 國精

電信案

外務省

S 13401 189 0144

就テハ「ソヴイエト」政府ニ於テ條約論乃至法律論ニ拘泥スルコト
 ナク日露親善ノ本義ニ立脚シ將來第三「インターナシヨナル」ヲシ
 テ此種言動ヲ繰返サザラシムル様本件ニ對シ慎重ナル考慮ヲ加ヘラ
 レ度旨同政府當局ニ對シ口頭ヲ以テ申入レラレ先方ノ應對振電報ア
 リ度シ

(原議用紙乙) 國精

電信案

外務省

S 13401 190 0145

電信課長

大臣

次傷

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

類 73.4.1.2-4
711
160-127

昭和3 八七〇三 暗 莫斯科 廿七日後發
本省 六月廿八日後着 歐一

田中外務大臣

第二四九號

貴電第二二五號ニ關シ

廿七日「カラハン」ニ會見後訓令ノ趣旨ヲ述ヘ日本政府ハ本件ヲ提ケテ貴方ト爭議セントスルニアラス日露親善關係保持ノ見地ヨリ貴方ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ貴方適當ナリト思考サルル方法ニ依リスル非友誼的ノ記事掲載ヲ繰返ササル様措置セラレシコトヲ要望スルモノナル旨ヲ説述シタルニ「カ」ハ然ラハ考慮ノ後御陳述ニ對シ正面ヨリ回答スレハ第三「インターナショナル」ニ對シ

知新物

外務省

S

13401

191

0146 ②

蘇政府ハ關係ヲ有セサルヲ以テ其ノ決議乃至宣言等ニ付措置ヲ執ル能ハスト云フノ外ナシ之貴官ニ對シテノミナラス各國ニ對シ從來蘇政府ノ答ヘ居タル挨拶ナリ殊ニ本件ノ場合ハ外國新聞ノ轉載ニ過キサルトト又共產黨ノ機關紙ニシテ政府ノ機關紙ニアラサル「ブラウダ」ニ現ハレタルコトハ一層本件ニ對スル措置ヲ困難ナラシム云々ト述ヘタルニ依リ本使ハ貴方ノ形式的乃至理論的答辯ヲ求メントスルニアラス要ハ兩國國交ヲ如何ニシテ圓滿ニ維持スヘキヤニ出發ス貴國政府ハ共產黨ノ政府ニシテ「ブラウダ」ハ黨ノ最高機關紙ナルヲ以テ若シ貴國政府ニ國交維持ノ誠意アリトセハ何等カノ措置ヲ執リ得サル譯ナシ今少シク踏込ミタル回答ヲ望ムト述ヘタルニ「カ」ハ日本政府カ兩國親善ノ爲友誼的ニ警告サ

外務省

S

13401

192

0147

ルルハ蘇政府ノ充分諒トスル所ニシテ蘇政府ニ於テモ同様ノ精神
ヨリ御注意ヲ傾聽スヘシ然リト雖之ニ對シ如何ナル措置ヲ執ルヤ
ヲ詰問サルレハ前述ノ正面回答ニ復歸スルノ外ナシ願クハ深甚ナ
ル注意ヲ喚起スル程度ニ止メラレ其レ以上追求セラレサランコト
ヲ望ム蘇政府ト共產黨ノ關係共產黨ト第三「インターナショナル」
ノ關係等ニ鑑ミ蘇政府カ其ノ執ラントスル措置アリトスルモ之ヲ
貴方ニ明言スルニ不便ナル事態アリト言ヒ尙其ノ後重ネテ本使ヨ
リ説明シタルモ之以上ハ云フ得スト云ヒ日本政府ノ御注意ノ次第
ハ蘇政府ニ充分ニ徹底セシムヘシト述ヘタルニ依リ其ノ邊ニテ之
ヲ打切りタルカ餘談トシテ「カ」ハ斯カル檄文ハ第三「インター
ナショナル」カ時々發表シ且外國ノ諸新聞（共產黨新聞ノコトナ

外務省

S 13401 193 0148

ラン）ニモ現ハルルヲ以テ世界共產黨ノ機關紙ヲ以テ任スル「ブ
ラウダ」トシテハ之カ轉載ヲ拒ムコト甚タ困難ナリ併シ日本人カ
懸念サルルカ如キ影響アリト思ハレスト云ヒ又日本ノ新聞ニモ時
々蘇政府ノ政策ヲ露骨ニ誹謗又ハ中傷セル記事論說屢々現ハレ事
ノ甚シキモノニハ我出先官憲ヲシテ注意ヲ喚起セシメ居レリ其レ
以上積極的ニ新聞掲載事項ニ干渉センコトヲ要求セス併シ日本官
憲ハ自ラ注意ノ意味ヲ諒解シ時ト場合ニ依リ適當措置セラレ居ル
モノト信スト諷刺的ニ述ヘ居タリ
尙序乍ラ申添度ハ御訓令ハ第三「インターナショナル」ノ檄文ニ
重キヲ置クヤ又ハ當國ノ重要新聞カ之ヲ掲載シタル事實ニ重キヲ
置クヤ充分ニ判明セサリシモ若シ前者ナリトセハ往電第一二五號

外務省

S 13401 194 0149

「テーズ」中ニハ我國本ト相容レサル重大事項ヲ含ミ之ヲ後廻
トシ今回ノ檄文ヲ論スルハ本末顛倒ト思考シタルヲ以テ前記ノ會
見ニ於テハ幾分後者ニ重キヲ置キ先方ニ説述シ置キタリ

外務省

S 13401 195 0150 V

REEL No. A-0367



アジア歴史資料センター